

第 63 回 JIA アーバントリップ見学会の報告

実施日 : 2010 年 6 月 30 日(水)

テーマ : 「今日のコンペの多様性と実り豊かな成果」

見学主旨 : 建築設計競技、いわゆるコンペは、1980 年代公共施設はじめ盛んに開催され、幾多の傑作建築を生み出す契機となりました。しかし、その後、コンペ提出物の作成にかかわる負担の問題、審査の透明性の問題、設計実現性などから、大きなオープンコンペはその数を減らし、他方、公開型のプロポーザルや指名コンペ、プロポーザルなどへと比重が移り、設計競技全体のかげりも窺えるようになりました。

ところが、昨今、こういったコンペなどの意味や意義を再評価し、建築家の積極的な提案を求める動きも現れ、他方、デザイナーズ住宅ブームを背景とするインターネットによるオープンコンペなども成果を上げています。

私どもでは、こうした動きを捉え、今一度、設計競技について考えたいと思っています。昨今のコンペやプロポーザルなどの背景から成果:完成した建物や施設の利用状況まで、つぶさに眺め、今日の建築に求められるもの、建築家がなし得たことなどを探り、今後の私たちの建築設計活動の糧としてゆきたいと考えています

見学先 1. 「立川市役所新庁舎」 設計・監理:

解説者: 赤澤 大介 氏 (山下設計企画開発部主任)

圓山 雄太郎 氏 (野沢正光建築工房)

古川 俊幸 氏 (立川市行政管理部施設課)

卯月 盛夫 氏 (早稲田大学教授)

2. 「西川口キリスト教会」 設計・監理: 西島正樹 + PRIME

解説者: 西島 正樹 氏 (建築家)

内藤 氏 (教会建設委員会委員長)

3. 「戸田市立芦原小学校」 設計・監理: 小泉雅生 + 小泉アトリエ

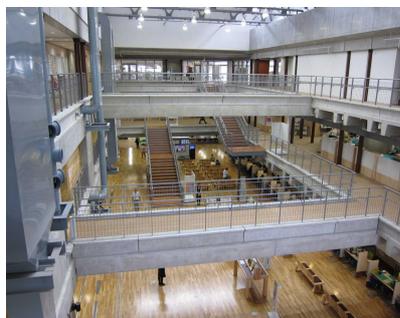
解説者: 小泉 雅生 氏 (建築家、首都大学教授)

佐藤 裕 氏 (建築家、元小泉アトリエ)

前田 一男 氏 (前芦原小校長)

第 63 回コーディネーター 赤川 鉄哉 (日建設計)

「立川市役所新庁舎」



「西川口キリスト教会」



「戸田市立芦原小学校」



見学後記

今回のテーマは「オープンコンペ・プロポーザル」です。このようなテーマを取り上げた理由は、ひとつには、とかく、建築主・主催者側が雨漏りのしない、使いやすくメンテナンスも容易で、工事費もリーズナブルである設計案を求め、大手の設計事務所などをノミネートし指名コンペを行なうことが少なくない状況の中で、一般的には予想もつかないアイデアや意味深い提案などを広く募ることができるオープンコンペ等を、改めて積極的に位置づけたいという思いと、もうひとつには、その反面、建築をつくることとはどういうことなのか？誰のためにどうやってどのような建築をつくるのか？その時、建築家・設計者に求められるものは何なのか？をあぶりだし、そして、実際、そうして実現した建物がどのように使われ、どのような効果・結果を残したのか？建築家は何ができたのか？を真摯にみてみたいと考えたからです。こうした思いが参加者とどれだけ共有できたかは定かではなく、コーディネーターとしての不備に対するお詫びとして以下に私の感想をいくつか簡単に述べたいと思います。また、後段には建物個々の所感として、当日参加者である海谷寛さんの臨場感あるエッセイ(Bulletin 2010年11月号掲載)を抜粋、収録させていただきます。

立川市新庁舎

汚職問題を契機として、行政内部建設企画者やそのブレンが熱い情熱を持って「本来あるべき市民のための市庁舎をどうつくるか？」を問い続け、その結果、市民100人委員会の組織、提案書の作成、はじめての市民対話型2段階オープンコンペの実施、市民連携による技術提案評価方式施工者選定として結実したことが伺い知れました。また、設計者選定にあたっては、市民とどう接して行くことができるのか、どのように市民の意見を反映させて行くことができるのかも、一部、審査の対象となったようです。見学後の小さなパネルディスカッションで明かされたこの事実に設計者側も少々驚いた様子でした。

竣工後の市民の反応は好評であるようで、設計プロセスに参画したこと、その際に十分に納得しえたことが市民満足度に結びついているようです。また、同様に、職員ほか利用者の理解・協力(我慢)を得て環境建築としての成果もあげているようです。

西川口キリスト教会

この教会の建設委員長のお話はウィットに富んだたいへん興味深いものでした。信徒のためすばらしい建物を作りたいという思いから、優れた住宅作品を生んでいるハウスコンペに注目しコンペ開催に至った経緯や、信徒相互と設計者のため徹底的に民主的な運営をしたことなどを伺いまいした。また、下位にあった当選案がうまく幾度も採決をすり抜け、最後には、白板にその場で自らダイアグラムを描く大胆なプレゼンテーションで逆転したという裏話も披露いただきました。

オムスピ型平面、トップライトの光、音声の響きなど、設計者の哲学とこだわりが見事に昇華した秀作であると感じました。

戸田市立芦原小学校

児童・生徒から卒業証書をもらいました、と自己紹介する前校長の言葉には、のっけからこの学校のユニークさを感じました。教育現場側でも注視する中でプロポーザルが実施されたとはいえ、完成後に赴任しはじめて建物を知ったのに、建築の特徴を十分に感知し教育に活かすことができたのは、ひとえに、この校長の人柄、人間性、そして教育理念によるものと感服しました。それは、オープンスクール形式の授業中における騒音問題に関する質問に対し、授業の方法でまったく問題にならないとのきっぱりとした回答にも明らかでした。

建物の見学は放課後を狙って実施されましたが、教室など校舎内に残っている生徒たちから聞いた「こんにちはー」という明るくまったく屈託のないあいさつがとても印象的でした。

(以上 赤川鉄哉)

立川市新庁舎

今年5月竣工。立川方式と呼ばれる革新的な市民参加型(05年9月1次コンペから始まる)。卯月さん、市役所の古川さん、他、設計者共同体の赤揮さん、園山さんの説明を受けて見学。新市街地、モノレール最寄りの駅より昭和記念公園へ向かう3列の大樹のある並木道の脇にあります。広い敷地を生かし全体を低層3階、屋上緑化し、いくつもの大きなポイド空間から自然採光、換気を可能とする環境型建築です。並木道をギャラリー、授乳室、食堂等の諸室を設けています。内側にある市民ロビーは3層の吹き抜け、上部階へのアクセス階段、ブリッジが横断する。大屋根折半からの十分な光のもとで、市民の目線につくられた空間は心地良い場所です。PC梁、柱間約8mX16mは自由度の高い執務空間として、爽やかな環境空間です。

西川口教会

08年3月民間のネットコンペサイトの公開から始まり、今年、桜咲く頃に完成した作品です。設計者西島さんと建設委員長からお話を伺う。北側の道路は桜並木の遊歩道、子供の遊び場です。間口は狭く奥行きのある敷地にRC造打ち放しの新教会を道路際に改築し、奥にある牧師館との間に中庭を作っている。1階には会議室・食堂・エントランスホールの壁を引き戸の開閉で多目的な運用をはかり、ガラス越しの牧師館前広場へも繋がる。2階へはホール脇の階段を上がり、南北軸上になる集中形式の礼拝堂と祈祷室との間にあるロビーに出ます。礼拝堂はトップライト光の軸線に導かれ降り注ぐ光、祭壇両サイドライトなど、静かさの中に、柔らかで豊かな空間が待ち受けています。とても幸せな場所です。(紙面の都合上、写真掲載出来ず、大変残念です。)

戸田市芦原小学校

01年設計開始され、05年完成。埼京線から、その姿は屋上庭園と、プールが見える小学校です。月日が経っても非常に親しみを感じさせます。当時の校長先生、設計者小泉さん、スタッフの方々から建築の経緯を伺う。当時の新駅建設に伴う、新街区の新住民のための新しいくっ教育環境を目指したオープンスクールです。グランドを含む広さはかなりのものです。建物は4層からなっており、散りばめられた大小の中庭は多様な外部空間を作り、吹き抜けは視覚上での一体感が可能になり、生き生きとした場所です。子供たちの活動の場所学童保育室、2階は特別教室群、大きな中庭、3階は3年生から6年生室、最上階はビオトープのある屋上庭園、プールです。半室内化されたパスと呼ぶ通路から建物に入ると学童保育室、上部に広がる大きな中庭へと視界の広がりの中で、3階の教室の壁に囲われた場所が切り取る空は天蓋の役割を果たし、子供たちの小宇宙空間を感じさせます。

(海谷 寛 / 海谷設計事務所 Bulletin 2010年11月号より抜粋)